

## 第4回 薬薬連携の会開催報告書

日時：平成29年11月8日（木）18：30～19：30

場所：日本医科大学武蔵小杉病院C館会議室

参加者数：計31名

：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部…10名

：聖マリアンナ医科大学東横病院…5名

：コクミン薬局武蔵小杉店…3名

：ミキ薬局武蔵小杉店…1名

：アイランド薬局小杉店…4名

：日本調剤こすぎ薬局…1名

：フレンド薬局…1名

：薬樹薬局小杉…1名

：薬樹薬局元住吉…1名

：つる薬局元住吉店…1名

：とどろき地域包括支援センター…3名

講演：「保険薬局の在宅の取り組み」

演者：薬樹薬局小杉 片山直子先生

司会：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部 野口周作先生

閉会挨拶：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部 笠原英城先生

講演に関し以下の質問があった。

- ・当院（日本医科大学武蔵小杉病院）発行の処方箋による在宅は行われているのか。

：実際は、当院発行の処方箋で在宅業務を行うことは稀である。在宅医管理の患者が状態悪化にて入院し、入院後は在宅医に戻るといった形態で当院と関わることはある。

- ・TPNの混注について。混注後の薬剤の安定性の問題もあり、1週間に1回の訪問業務では充足できない部分もあるのではないかと。

：混注業務の要らないTPNのキット製剤を調剤している。また、訪問看護師さんが必要な時は混注していることもある。また、薬局で混注が必要であれば、在宅専門のクリーンベンチを完備しているグループ会社の薬局にお願いしている。

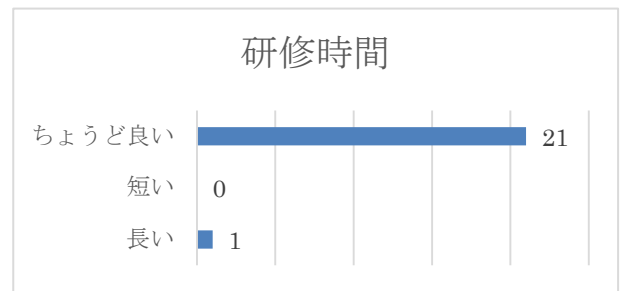
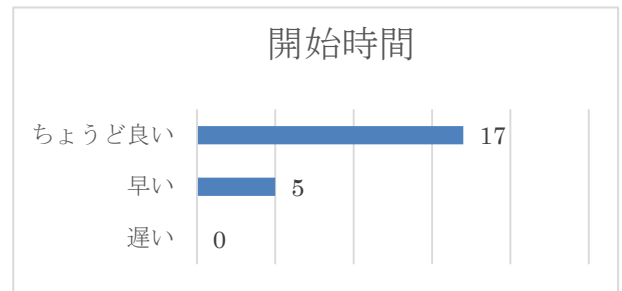
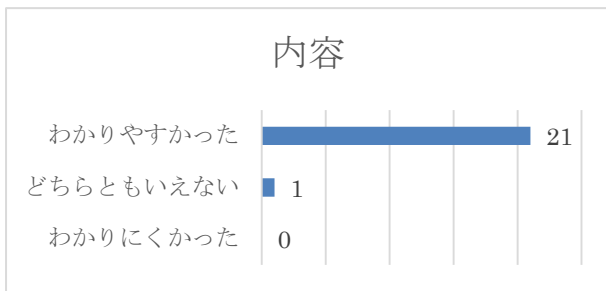
- ・在宅業務を行っている中で病院薬剤師に求めることはあるか

：入院中の薬剤の変更点、指導内容、病名などの記載がお薬手帳を通じて情報を共有できると、在宅での指導の時に役に立つ。

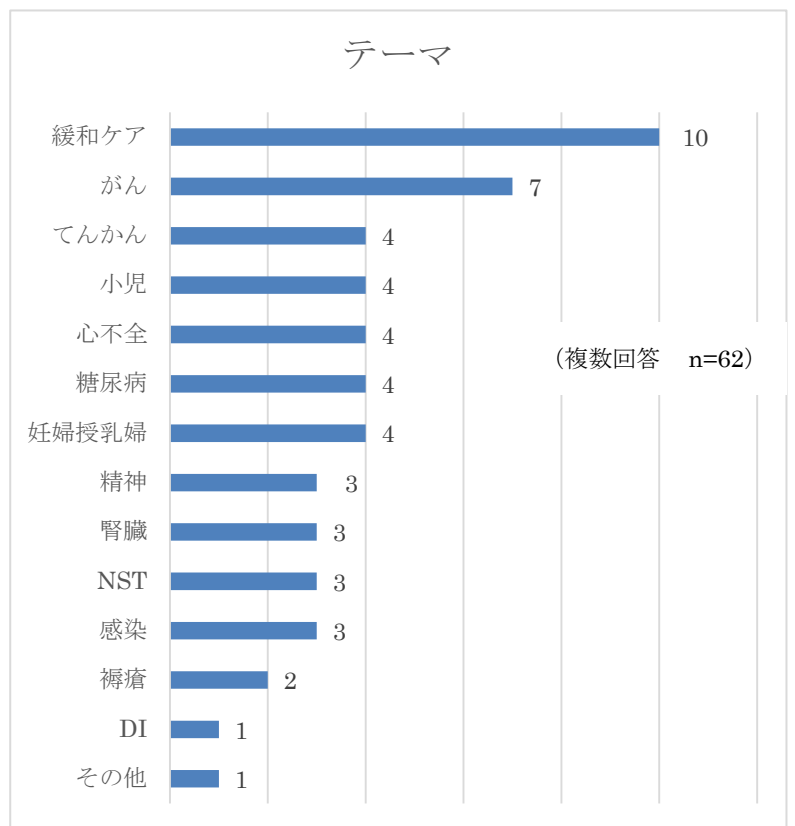
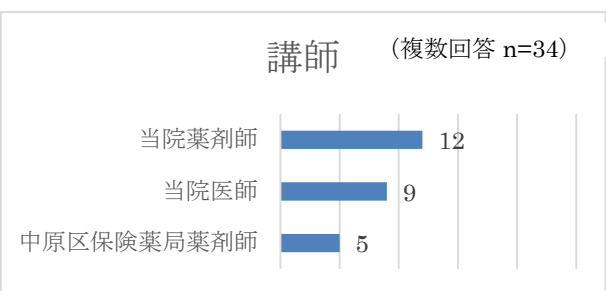
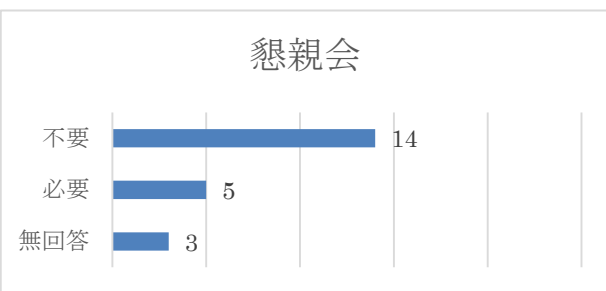
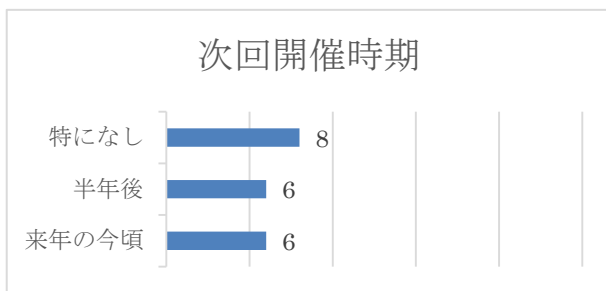
会に際し、参加者（当院薬剤部を除く）に対しアンケートを行い、22名より回答があった。

以下、アンケート内容と結果を示す。

【本日の会について】



【次回以降の開催について】



以上  
書記 田原